

熊楠ワークス

/ C / O / N / T / E / N / T / S /

vol
20

南方熊楠賞授賞式

1~2面

特集

熊楠イン・ミシガン

1 米国での南方熊楠

3~5面

2 南方熊楠邸に眠る

資料「球陽」6~7面

連 載

熊楠ゆかりの地を訪ねる
安藤蜜柑(南方邸)

8面

南方熊楠邸 秋の特別公開

9面

整理整頓

毎年暮れになると、わたしだけ一通りの大掃除はするのだけれど、なんで人間はこんなにモノが要るのだろうか、と思うことしきりである。

ただ食べるためだけに、こんなに食器が要るのだろうか、体が一つなのに、なぜ着るものがこんなに要るの、食物は減っていくのに、本は減らないし消えていかない、十年以上使っていないけれど今後使うことがあるのだろうか、などなど毎年考えている。

絵・エッセイ／

松下千恵(わかやま絵本の会代表)

「『日本が世界の中でりっぱな国になるためには、まず日本人自身が外国に出て、相手の国を知るのが一番…』…1887年1月、熊楠を乗せたシティ・オブ・ペキン号がサンフランシスコの港につきました。」=絵本『南方熊楠』から=

それで今年は思い切って大量に捨てた。それならいっそのこと何も買わない何も作らないようにすればいいと思ったりもしたが、なかなか人間の営みというのは、そうもいかない。残すモノと捨てるモノの選択が難しいのだ。

クマグス先生の大量の収集品や資料の整理がいまだに続けられているのは、それは「残す」名人だったからだと思う。整理整頓したモノすら忘れてしまうわたしにとっては、残すことなど意味があるのか?と考えている。

